

カプセル内視鏡検査の流れとは

1

検査の前日

- 消化の良い食事を午後10時までに取り、その後の飲食はお控えください。
- 喫煙はカプセルを飲む24時間前からおやめください。



2

検査の始まり

- アンテナを腹部に貼付し、記録装置をベルトで腰に付けます。
- カプセル内視鏡を適量の水で飲み込みます。その後は職場に、ご家庭にお戻りいただけます。



3

検査の終わり

- およそ8時間後、病院に戻り、アンテナと記録装置を返却します。
- カプセルは排便時に、体外に排出されます。

*排出されたカプセルは所定の回収バッグに入れ、地方自治体や病院のルールに従い、適切に廃棄してください。



ギブン・イメージング株式会社

飲むだけの 小腸内視鏡検査

— カプセル内視鏡 —



実物大

お問い合わせ先

監修：日本医科大学 消化器内科
教授 坂本 長逸 先生

カプセル内視鏡検査って何？

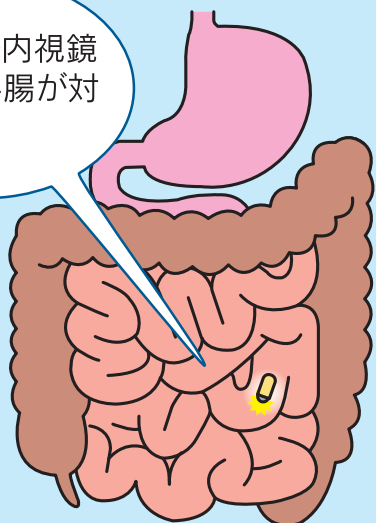
カプセル内視鏡検査とは

超小型カメラを内蔵した長さ26mm×幅11mmのカプセルをビタミン剤のように口から飲み込むだけの内視鏡検査です。

カプセルは消化管を通過しながら画像を撮影し、画像を記録装置に転送します。医師はこの画像をもとに小腸の診断を行います。

※非常に稀ですが、カプセルが消化管内の病変により、体内に滞留する報告があります。

カプセル内視鏡検査は小腸が対象です。



カプセル内視鏡検査の特徴

- 従来の小腸検査に比べ、苦痛がほとんど無い検査です。
- 検査中は日常生活ができます。
- 検査開始2時間後からお水、4時間後から軽い食事を取る事ができます。



※カプセル内視鏡検査は保険適用です。

正確な診断に役立ちます

小腸は、全長が6m～7mと長く、全消化管の75%を占める、体内で最も長い臓器であり、従来の内視鏡やその他の検査方法では十分な観察が出来ませんでした。そのため、優れた検査方法の開発が望まれていました。

カプセル内視鏡検査は、従来、他の小腸検査では見逃されてきた病変の検出が可能であることを証明しました。

特に原因不明の消化管出血例のうち小腸腫瘍が発見された症例は約9%にのぼり、そのうち約半数が悪性腫瘍であったとの報告もありました。

一個のカプセルを飲むことで小腸内視鏡検査ができ、原因不明の消化管出血の原因が明らかになり、さらには早期診断、早期治療の可能性となる検査です。